



森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう



■表紙写真 題名：「千年の守り」 撮影地：島田市 千葉山 撮影者：伊賀 誠氏（島田市）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。

URL : <https://www.moritohito.jp>



INDEX

- 2** 森林・林業研究センターだよりNo91
30年後の森林・林業のために、今、試験研究機関が取り組むべきこと
- 3** 特別寄稿（一般財団法人三保松原保全研究所）
三保松原の保全と活用
- 4** 支部だより①（伊東市産業課農林水産係）
令和元年台風15号による伊東市池災害を振り返って
- 5** 支部だより②（浜松市産業部林業振興課 天竜森林事務所）
「…シュバツ?」「…カンバツ?」 ～浜松市の森林管理業務に携わって～
- 6** 県庁だより （くらし・環境部 管理局 環境ふれあい課）
森林環境教育の推進へ向けて
- 7** 本部情報
令和3年度の治山・林道等の優秀工事が決まりました
- 8-11** 特集 （公益社団法人静岡県山林協会）
400号を迎えて ～300号以降の主な取組や出来事～
- 12** 本部情報
県への要請活動について
林業への就業支援について

別冊折込 第38回しずおか森林写真コンクール受賞作品
令和3年度治山・林道コンクールの優秀工事

30年後の森林・林業のために、 今、試験研究機関が取り組むべきこと

企画指導スタッフ

森林・林業研究センターからはこれまでの研究を振り返り、今後の研究内容の考えを紹介していただきました。

30年前からの課題

「近年木材需要の伸び悩み、外材輸入の増加、代替材の進出などにより、林業、木材産業は厳しい環境となっております。このような状態を克服し、林業の明るい未来を切り拓くため、試験研究機関に対する県民の期待は大きく、その果たすべき責務は極めて重要となっております…」皆さんはこの一文に違和感ありましたか？実はこれは、今から約30年前に発行されたセンター記念誌の冒頭で当時の農地森林部長が寄稿した言葉です。

30年間たった今、森林・林業の明るい未来は切り拓けたと言えるでしょうか？

30年間の歩み

30年前といえば、木材需要の急激な減退に伴う価格の低落と外材輸入に押され、素材生産量と造林面積がピーク時の3分の1に減少していたころです。

このような時代背景の中、センターでは、生産性向上のための優良品種の開発や運材システムの開発、木材製品の品質向上のための乾燥技術開発や商品化支援等を行ってきました。

先輩方の努力により、これら各分野で研究成果を出し、森林・林業に貢献してきたことは間違いありません。しかし、それ以上に世の中の流れは早く、生産性の追求や情報化の流れに乗って成長してきた他産業に比べて、遅れをとってきたと言わざるを得ません。

30年後の社会

今後30年間で社会情勢はさらに大きく変わっていくことが予想されます。SDGsの考え方が拡がり、社会経済全体の持続性を高めることが求められ、特に脱炭素に向けた動きは加速化していくでしょう。

このような社会で森林・林業の求められる役割は非常に大きく、これは産業として発展できるチャンスだといえます。

一方、AI・IoT技術の発達など第4次産業革命と言われる大きな産業構造の転換期を迎えており、この数年は森林・林業がこの流れに乗り遅れることなく発展し社会に貢献できるのか試金石となる期間でもあります。

30年後を見据えた研究

センターでは、30年後を見据え、今後の研究について、県内の林業、製材業、

流通業、大学の各分野で活躍されているオピニオンリーダーから意見をいただきました。主なものは下表のとおりです。

今回いただいた意見は、研究課題の設定や、長期の研究方針を策定する際の参考にさせていただきます。

また、センターにこんな研究をしてほしい、現場ではこんなことに困っているので研究で解決してほしい、といった要望がありましたら、気軽にご相談ください。

30年後に向けて

センターは、研究を通じて、豊かで多様な森林の恵みを生かした循環型社会の形成に努め、県民活動の持続可能な発展に寄与することが使命です。このために直面する多様な課題の解決に向けて、今後も研究開発・技術支援等に取り組んでいきます。30年後の記念誌の冒頭では、こんな一文が掲載されているように。

「この30年間、SDGsや脱炭素に向けて社会は大きく舵を切ってきました。その中で森林・林業は大きな役割を果たし、目覚ましい発展を遂げてきました。今や木材や木材由来の新素材は現在の社会に欠かせないものとなっています。さらにこの先も森林資源を循環させ、この産業が持続的に発展していくため、センターでは引き続き時代に即した研究を進めてまいります。」

表 オピニオンリーダーからの主な意見

項 目	意見の概要
樹種転換	これまでのスギ・ヒノキ一辺倒の林業では、将来の木材需要に対応できない可能性がある。広葉樹林化による森林の多面的利用方法の検討や早生樹への転換による短期林業の導入など長期的視点をもって検討すべき
獣害対策	資源の循環利用や炭素固定のためには、伐採後の植栽（天然更新も含む）が必須であるが、シカなどの食害により未植栽地の増加が懸念される。ICTを活用した効率的な捕獲手法や効果的な防除法の新技術の開発が必要
デジタル技術	3次元データの取得による森林資源情報の把握などデジタル技術の普及が進む中、これらの技術を現場に落とし込むことが重要。これまでの研究で得たデータを活用し、現場実装に向けた技術支援を求める
流通システム	ウッドショックのような急な需要動向の変化にも対応できるよう、工務店等からの需要情報を供給側の素材生産者までが共有するシステムにより、木材製品の安定的な供給体制を構築する必要がある
その他	林業現場の労働安全性の改善、木材製品に付加価値を付ける研究、さらには研究対象を建築分野まで広げるべき

特別寄稿

三保松原の保全と活用

一般財団法人三保松原保全研究所 澤野光寿

三保松原保全の技術支援のため、県から一般財団法人三保松原保全研究所に派遣されている澤野さんに、三保松原の保全と活用の両立を目指した取組について紹介いただきました。

三保松原を保全する組織

三保松原は大正11年に「名勝」指定された後、文化財保護法に基づき旧清水市が、合併後は静岡市が管理を行っています。

保全の大きな転換点となったのが、平成25年度の富士山世界文化遺産（以下、世界遺産）構成資産への登録です。翌26年度に有識者会議「三保松原の松林保全技術会議」が開催され、その提言に基づき、令和元年度にマツ林保全の専門組織「一般財団法人三保松原保全研究所」（以下、研究所）が、静岡市・静岡県・地元企業3社により設立されました。研究所は現在、常勤職員4名体制で保全業務の設計監理、調査・検証、提案ほか研究等に取り組んでいます。

県の森林・林業職員である私は、平成30年度に三保松原保全の技術支援としてまず静岡市（文化財課）へ派遣となり、令和元年6月から研究所への派遣へと替わりました。

三保松原保全の特殊性

三保松原の保全には、一般的なマツ林と大きく異なる点がいくつかあります。老齢大木の危険防止・長寿命化という課題もその一つです。

私は静岡市へ派遣となった当初、いきなり信仰と観光のコアな場所である「神の道」で、老齢大木5本を伐倒するという、林業と似て非なる業務に直面しま

した。当地は観光客が大変多く住宅地も近接していることから、ワイヤーロープ支保等の倒伏対策が取られてきましたが、内部腐朽が進んだ特に危険度の高いマツについては、安全のために伐倒せざるを得ませんでした。

これはなかなかプレッシャーの掛かる業務で、伐る前に台風が来ないように祈り、伐倒現場ではテレビ取材の対応をしつつ、（伐った結果、中が腐っていない健全なマツだったらどうするか）というリアルな不安とも闘っていました。無論、内部診断（音波や穿孔）を行った上での伐倒ですが、直接見るができない幹内部のこと、万が一の誤診があった場合、地元の方や長い年月を生きてきたマツに対して申し訳が無さすぎますし、目の前にはそれを即座にニュースにするであろうテレビカメラが構えています。

1本目の切株断面が6割以上腐朽していたことを確認した時は、歴史あるマツを伐倒しなければならなかった無念さと、実際に腐朽していた安堵感が入り混じった、なんとも言えない思いに浸されました。三保松原で行う全ての業務には、根底に「保全と活用を両立させる」というテーマが流れています。この複雑な気持ちは、その難しさを象徴するものだったと、後になって思いました。

マツ材線虫病の防除

マツ材線虫病防除においても活用への配慮は必須です。当地では平成

18～19年度に爆発的に被害が増加したあと、25年度まで高止まりの状態が続いていました。これは、17年度まで行っていた有人ヘリコプターによる薬剤散布が、防除基準の改正により住宅地が近い当地では不可となったことが主因です。その後、世界遺産登録を契機として無人ヘリコプターを導入するなど防除が徹底され、27年度には激害前のレベルまで減少しました。世界中から観光客が訪れる場として、使用薬剤を規制の厳しいEUでも認可されているものとし、研究所の設立後は、より飛散の少ないドローンによる散布を試行するなど、より安心・安全な防除を進めています。

規制と魅力発信

樹齢数百年の老齢大木が林立する区域に、年間約50万人もの観光客が集中すると、相当な環境負荷が生じることは想像に難くありません。羽衣の松周辺は正に、「保全と活用」の相克を代表するエリアです。

実際に、踏圧の蓄積により土壌が固結化し、世界遺産登録直後は多くのマツが衰弱していました。そこで平成28年度より木炭と菌根菌を使った土壌改良を開始して危うく危機的状況を脱し、令和2年度には更に通行ルートを規制して、今後の維持管理の目途も立ちました。

観光客の行動規制は保全上やむを得ませんが、松原の魅力を大きく損なわないようバランスを取ることが必要です。一方で松原の魅力を分かりやすく発信することも大切です。研究所では、巨木・奇木、キノコ、花等を紹介する企画展、冊子刊行、SNS等も行っています。

本稿では、様々な取り組みのうち、特徴的な「保全と活用の両立」というテーマに絞って紹介させて頂きました。三保松原を訪れることがありましたら、多くの関係者と多くの施策でこの景観が守られている事に想いを馳せて頂ければ有難いです。

支部だより①

令和元年台風15号による伊東市池災害を振り返って

伊東市産業課農林水産係

令和元年の台風15号で大きな災害のあった池地区の被災状況や復旧状況を紹介いただきました。



▲写真-1 令和元年9月13日伊東市池冠水状況
(株)ウインディーネットワーク撮影 情報提供)

背景

伊東市は、ユネスコ世界ジオパークに認定された静岡県東部、伊豆半島の東に位置し、富士箱根伊豆国立公園に市域の約半分が含まれ、美しい自然景観と自然環境資源に恵まれています。

このような自然環境資源を生かし、平野部では施設野菜、露地野菜のほか稲作などを、山間部では茶、みかんなどを栽培しています。しかしながら、農林業者の高齢化や後継者不足により、荒廃した山林や農地が拡大しつつあります。

そのような中、伊東市内で最大の稲作地である池地区の水田が、令和元年9月の台風15号により、冠水しました。冠水した原因は、水田近くの山林が土砂崩れを起こし、その崩れた土砂でせき止められた水路から水が溢れたためです。現在、水田の冠水は解消されましたが、土砂崩れを起こした山林の復旧事業は、継続中であり、被災時の状況と現在の復旧状況について紹介します。

道入口が閉塞してしまったことから、水田の約8割が冠水してしまいました。

また他にも、付近の山林で土砂崩れが発生し、わさび田への土砂流入や林道池線の一部崩落など甚大な被害をもたらしました。



▲被災時の隧道入口付近山林法面状況



▲隧道入口付近山林法面復旧状況



▲林道池線復旧作業に着手できていない状況

災害の概要

1)被災時状況

伊東市池には、約26ヘクタールの水田が広がっていますが、令和元年9月の台風15号により約20ヘクタールが冠水しました(写真-1)。水田近くの山林が土砂崩れを起こしたことで水路が埋塞し、また、水路下流部にある隧道付近の山林でも土砂崩れが起こり、隧

2)現在の復旧状況

水路や隧道入口の土砂は撤去され、土砂崩れを起こした山林の法面を治山事業により復旧しています。山林の法面復旧は、令和3年度中におおむね終了する見込みですが、一部令和4年度まで事業を継続して行う予定であり、

また、山林の崩落箇所によっては、未だ復旧事業に取り組めていない所もあります。

まとめ

森林は、土砂災害防止機能や水源涵養機能など、土壤侵食や表層崩壊を抑止する効果がありますが、今回の令和元年の災害を受け、適切に整備することが重要だと感じました。本市においても、管理の行き届いてない私有林が多く存在しており、災害防止の観点から、森林整備を進めていく必要があるため、森林環境譲与税などを活用することで、森林の整備が少しでも進むように取り組んでいきたいと考えています。

支部 だより②

「…シュバツ?」「…カンバツ?」 ～浜松市の森林管理業務に携わって～

浜松市産業部林業振興課 天竜森林事務所 山下千晶

今年はじめて森林の仕事に従事している山下さんに、日頃感じることや思いを披露していただきました。

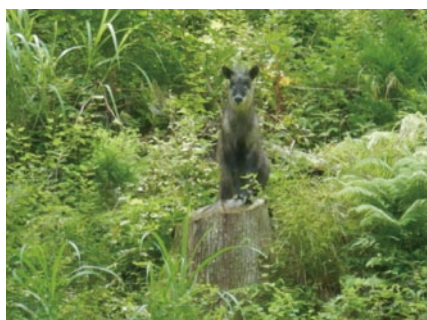


▲地元新聞の取材の様子

「天竜森林事務所?」「森林?」3月下旬、人事異動発令で見た異動先は、どんな業務があるのか予想できない場所でした。

そして異動初日、これまで林業に携わったことはなく、スギとヒノキの区別もつかず、加えて(おそらく)花粉症持ちの自分は、これからやっていけるのか頭の中がハテナだらけになりました。

それから半年の間、4月の外動中に初めてカモシカに遭遇したときはのちにカモシカ管理計画で大きく関わるとは思いもよらず、また、慣れない山の斜面を文字通り周囲の方の手を借りて登り…デスクワークばかりだった昨年度までと比べ、森林の中に入っていくことが多く、冒頭の「主伐」と「間伐」はもちろんのこと、次第に林業用語を覚えてきました。そのような林業初心者がおこがましくも自由につづりたいと思います。



▲管内ではカモシカに遭遇することも

この半年間で一番実感したのは、浜松市の森林の多さです。本市は政令指定都市でありながらも、北は人工

林中心の天竜林業地、東は天竜川、南は遠州灘海岸、西は浜名湖などに代表される豊かな自然に四方を囲まれています。市の面積のうち森林が65%以上占めており、国内有数の良質な木材「天竜美林」の産地として栄え、日本三大人工美林のひとつに数えられています。また、市街地から少し北へ車を走らせるだけで森林が広がっている本市は、キャンプ場も多くあります。昨今はキャンプブームです。景色や設備に恵まれたキャンプ場を通して本市の山間地域の知名度が上がり、これを契機に山に興味を持つ人も増えていけば喜ばしいことだと感じています。

折しも、世間はテレワークが推奨されています。テレワーク等を利用し、職場や居住地から離れ、地方で普段の仕事を継続する、いわゆるワーケーションも増えているようです。社会の仕組みや人々の価値観が大きく変化し、ビジネスや教育など幅広い分野でのデジタル化がこれまでにないスピードで進展しています。特に最近では、地方でもテレワークにより都市部と同じ仕事ができるため、大都市と地方との多拠点居住に関心が高まり、ヒト、モノ、カネが集中する過密な大都市から、地方への分散化が加速する気配もあります。こうした変化は、都市機能もありつつ、あらゆる自然に恵まれ、東京、大阪、名古屋といった大都市へのアクセスも良い本市にとっては、人を迎え入れる大きなチャン

スなのかもしれません。

そのような流れの中、林業とデジタルは遠いイメージがありますが、労働生産性を高め、一方で労働災害を減らすため最近「スマート林業」が進められています。現在は伐採の届出は紙提出、現況確認は半日から1日かけて現地に出向していますが、近い将来もっとスマートになっていくかもしれません。その頃、自分がどんな業務に就いているかわかりませんが、林業に携わる人々が「施業しやすい」「楽しい」「続けたい」と思えるような山林がずっと続くことを願っています。そしてその山林を見て、「癒される」「また来たい」「この景色を残すために自分ができることをやろう」と思う人が増えていけば、多少なりとも林業に携わった身として喜ばしいことだと感じます。



▲小規模林地開発の現地調査

まずは自分自身今まで知らなかった世界を知るまたとない機会と捉え、日々業務の習得に励んでいきます。

県庁 だより①

森林環境教育の推進へ向けて

くらし・環境部 環境局 環境ふれあい課

森林環境譲与税により実施している、森林環境教育の指導者や団体の育成に関する事業について紹介いただきました。

はじめに

令和元年度に「森林環境譲与税」が市町及び県へ譲与され、市町は「森林整備及びその促進に関する施策」を実施し、県は市町が実施する森林環境譲与税に関する施策の支援を行っています。

森林環境教育については、森林内で活動する際の安全管理に関する知識や、受け手への伝え方等の高い専門性を持った人材を育成するための講座を開催し、市町が森林環境教育に効果的に取り組めるよう支援を行っています。

令和3年度は3つの事業を行っていますので、概要を紹介します。

1 森林環境教育指導者養成講座

自然と人をつなぐ役割を持つ、森林環境教育の指導者を育成するための「森林環境教育指導者養成講座」を、令和元年度から開催しています。令和3年度は、森林環境教育とはどのようなものか体験できる「体験コース(1日)」、森林環境教育指導者として必要な知識や技術を身につける「養成コース(全10日)」、興味に合わせた森林環境教育を学べる「テーマ別コース(3日)」の3つのコースがあります。

「養成コース」では、森林に関する基礎知識や指導者の役割を座学や現地での体験を通して学びます。また、実際にプログラムを組み立て、小学生へ向

けた実践も行います。なお、新型コロナウイルス感染症を考慮し、一部オンラインで講座を行っています。

これまでに、51人の方がこの講座を修了し、指導者としての活躍が期待されています。



▲オンラインでの常葉大学山田辰美名誉教授の講義

2 森づくり団体安全管理講座

森林内の移動や作業を伴うプログラムなど、森林環境教育を行うときは参加者の安全管理が重要です。参加者が多い場合などは複数のスタッフで対応する必要があることから、森づくり団体の組織としての安全管理体制の整備をサポートする「森づくり団体安全管理講座」を令和2年度から開催しています。

リスクマネジメントの基本を学ぶ「集合研修(2日)」と、団体の活動場所や内容に沿った安全管理マニュアルの作成を支援する「個別(実践)研修」を行い、組織内での安全管理を考えます。

令和2年度は3つの森づくり団体が安全管理マニュアルを備え、安心安全

な森林環境教育を提供する体制を強化しました。令和3年度も同様に講座を行い、森づくり団体をサポートしています。



▲現地での集合研修の様子

3 人材バンクの活用

森林環境教育指導者養成講座を修了した人等、知識や技術を持った人を「森林環境教育指導者人材バンク」へ登録しています。

今後人材バンク登録者の活躍に向けて、森林環境譲与税で森林環境教育を行っている県内外の事例を調査し、市町等へ情報共有していく予定です。事例は①森づくり活動(現地作業を主としたもの)、②自然体験プログラム(現地での自然観察や体験を主としたもの)、③森林ESD(座学を主としたもの)の3つを調査中です。

おわりに

森林を守り、育て、活かす「森林との共生」を推進していくうえで、森林環境教育は重要な役割を担っています。

今後も引き続き、自然と人をつなげる指導者や団体の育成に取り組んでいきます。



▲指導者養成講座の終盤には受講生が企画したプログラムを小学生を対象に実践します

本情報

令和3年度の治山・林道等の優秀工事が決まりました

静岡県山林協会では、治山・林道・森林整備等工事の中で、優れた工事を顕彰し、施工技術の向上等を図る「治山・林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各農林事務所から推薦をいただき、審査の結果、治山工事の部8件、治山木材使用工事の部1件、林道工事の部4件、林道木材使用工事の部1件、森林整備等工事の部1件に対して山林協会長賞を授与することとし、10月25日(月)に表彰式を行いました。

表彰された工事は、急峻な地形や厳しい気象環境など施工条件が厳しい場所で、いずれも作業員の安全確保に十分配慮しながら、高い技術力を発揮された工事であり、工事関係者の皆様の日頃の御努力の成果が表れていることが高く評価されました。

部門	受賞者	施工地	工事名
治山工事	土屋建設 株式会社	伊豆の国市浮橋	令和2年度治山（緊急）田頭（1繰越）工事
	株式会社 室伏組	駿東郡小山町小山	令和元年度治山（緊急）滝沢尾工事
	石川建設 株式会社	磐田市東平松	平成31年度治山（現年災復旧）東平松（30繰越）工事
	株式会社 西村組	浜松市北区引佐町田沢	令和2年度治山（復旧）田沢（神子川）（元繰越）工事
	株式会社 西村組	浜松市天竜区佐久間町相月	令和元年度治山（復旧）キイナマ工事
	株式会社 グランドリサーチ	浜松市天竜区龍山町瀬尻	令和2年度治山（地すべり）下里2工事
	株式会社 西村組	浜松市天竜区龍山町瀬尻	令和元年度県単治山（県営）大庭工事
	エフ・正光建設株式会社	浜松市天竜区水窪町地頭方	令和元年度治山（緊急総合）有本工事
治山木材使用工事	株式会社 K A I T O	静岡市清水区宍原	令和2年度県単治山（施設等管理）大久保工事
林道工事	東静建設 株式会社	駿東郡小山町竹之下	令和2年度山村道路網整備金時線工事
	平和建設 株式会社	富士市中之郷	令和2年度集落間林道整備吉津金丸線工事
	旭建工 有限会社	静岡市葵区大沢	令和元年度森林環境保全整備権七峠線1工区工事
	丸大杉山建材 株式会社	静岡市葵区郷島	令和元年度道整備推進交付金俵峰門屋線2工区工事
林道木材使用工事	株式会社 山田組	藤枝市西方	令和2年度山村道路網整備びく石大沢線工事
森林整備等工事	有限会社 天竜フォレスター	浜松市天竜区佐久間町浦川	令和2年度森林環境保全直接支援事業（森林作業道）

特集

400号を迎えて ～300号以降の主な取組や出来事～ 公益社団法人静岡県山林協会

「森と人」は、今回で400号となりました。

323号までは毎月、それ以降は隔月で発行しており、平成19年6月の300号から今回まで14年5ヶ月となります。

森林・林業の動向全体を網羅したものではありませんが、「支部だより」や「県庁だより」などの300号以降の記事から、主な取組や出来事を振り返りました。

()内は掲載号で、記事の内容は掲載時点のものです。

全国育樹祭の開催

第36回全国育樹祭が本県で開催されました。

開催方針は、「森林資源の活用とそのための人づくり」でした。

- ・平成24年11月10日、11日の両日、皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、「木を植えて 育てて活かす 緑の力」を大会テーマに、第36回全国育樹祭が開催されました。
- 10日は伊豆市の「あまぎの森」でお手入れ行事が、11日は袋井市のエコパアリーナで式典行事が、それぞれ行われました。(347号 H25.1など)

林業再生プロジェクト

林業再生のビジネスモデル実現に向け、「富士森林再生プロジェクト(富士プロ)」が産学官の連携により開始されて以降、県内各地で、林業再生や木材増産を目指したプロジェクトが進められました。

- ・年々減少傾向にあった木材生産量は、増加に転じました。
- ・静岡県では、丸太の安定的な供給、効率的な加工・流通体制づくり及び木材の需要拡大により、県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」を、平成24年度に開始しました。(346号 H24.11)
- ・富士プロにより木材生産が順調に増加した富土地域では、富士市での木材増産を目指して、平成24年度から「富士南麓木材生産倍増プロジェクト」が進められました。(363号 H27.9) これにより、平成27年度に生産量倍増を達成するとともに、生産性も大幅にアップしました。(376号 H29.11)
- ・総合治山事業が実施された静岡市藁科川流域の日向・馬込地区では、地域住民が主体となった集約型の森林経営

を進めるため、地元、森林組合、農林事務所、市が連携したHINATA/MAGOME百年の森プロジェクトが始まりました。(377号 H30.1)

また、市内で開設が進む林道俵峰門屋線の利用区域においても、同様のプロジェクトが始まりました。(384号 H31.3)

- ・森町では、森林組合、県、町などが連携して、平成17年度に「森町林業再生プロジェクト」を開始し、森林組合では、提案型集約化施業と車両系機械による利用間伐にチャレンジしてきました。(301号 H19.7など)
- 平成28年度には、「三木のもり木材増産プロジェクト」を立ち上げ、増産に向けての課題解決に取り組み始めました。(378号 H30.3)
- ・天竜地域では、県森林組合連合会が事務局となって、地域の原木供給者や県、市町、天竜森林管理署で構成される「天竜材安定供給連絡協議会」が設立され、天竜材の需要と供給の一体的な創造を目指し、新たな販路開拓に向けた取組を進めました。(341号 H24.1)

森林認証の取得

環境、経済、社会が調和した持続可能な森林経営を行っていることを明らかにする森林認証(FSC・SGEC)の取得が、県内各地で進んでいます。

オール静岡での認証拡大に向け、「静岡県森林認証推進協議会」が設立されてからは、各地域で認証取得の母体となる認証管理団体の設立が進みました。

- ・平成19年9月、富士宮市白糸財産区が区有林においてSGEC森林認証を取得しました。(306号 H19.12)
- 富士市森林組合でも、富士市有林を対象にSGEC森林認証を取得しました。(354号 H26.3)
- ・平成30年10月、富土地域では、今まで単独で取得していたSGEC森林認証をグループ認証へと拡充し、富士山森林認証グループが発足しました。(383号 H31.1)
- ・静岡市では、平成17年に静岡市林業研究会森林認証部会が、林業研究グループとして全国で初めてSGEC森林認証を取得しており、さらに、平成29年8月に森林組合、市、県をメンバーとする認証管理団体として「オクシズ森林認証協議会」が設立され、平成30年2月にSGEC森林認証を取得しました。(378号 H30.3)
- ・平成20年3月、川根本町と9人の林家で組織する「F-net大井川」が、県内で初めてFSC森林認証を取得しました。(313号 H20.7)
- 川根本町が中心となって進めてきた森林認証推進は、平成

29年4月に森林組合おおいがわに事務局を移し、島田市、藤枝市、川根本町を管内に、広域での森林認証を進める体制が整いました。(375号 H29.9)

- ・中遠地域では、平成28年8月に森林組合、市町、県で遠州森林認証グループを設立し、平成29年3月FSC森林認証を取得しました。(375号 H29.9)

- ・平成22年3月、浜松市では、天竜材の復権を目指して、市内6森林組合や市、県などで構成する天竜林材業振興協議会が、FSC森林認証を全国で初めてグループで取得しました。(331号 H22.7)

地域材の利用推進

林業や木材産業の振興に向け、地域材や森林認証材の利用を推進する取組が各地で進められています。

持続可能な森林経営の下で生産された木材の利用は、CO₂の排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現に貢献します。

- ・県では、平成22年度まで実施していた事業を全面的に見直し、基準に適合した県産材製品を一定量使った住宅取得に対し助成する「住んでよし しずおか木の家推進事業」を平成23年度に開始しました。(337号 H23.5)

- ・また、「ふじのくに しずおか木使い推進プラン」に基づき、全庁を挙げ、積極的に県産材利用を進めています。平成26年度は、草薙運動場体育館「このはなアリーナ」のほか、県立高校・大学や総合庁舎などの県有施設で木造・木質化が図られました。(361号 H27.5)

- ・富士市では、富士ヒノキの認知度アップに向け、平成22年度に、地域材を使用した木造住宅取得に対し補助する事業をスタートさせました。(338号 H23.7など)

富士宮市でも、富士ヒノキを一定割合利用した木造住宅に対し、市内の商店街で使用できるクーポンを交付する事業を実施しています。(371号 H28.1)

- ・富士地域の行政、森林組合、木材協同組合等10団体で構成する「富士地区林業振興対策協議会」は、大消費地である関東圏を主な販売ターゲットとして見据え、環境ブランドとも言える「FUJI HINOKI MADE」を創設しました。富士山世界遺産センターの木格子への納材では、平成29年7月、建築物そのものを認証する「SGEC/PEFC-CoCプロジェクト認証」を日本で初めて取得しました。(377号 H30.1など)

- ・静岡市林業研究会森林認証部会やオクシズ森林認証協議会により供給されたオクシズの森林認証材は、治山工事として日本発のSGECプロジェクト認証を取得した清水区の木製堰堤や、平成30年に開館した日本平夢テラスなどに提供

されました。(395号 R3.1)

- ・島田市では、平成19年度から地域材を使用した住宅新築に対し金券を交付する事業を実施しています。また、平成28年度に東京都港区が主宰する「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」に加入し、市内で生産された木材の県外への販路拡大を進めています。(378号 H30.3)

- ・遠州森林認証グループでは、平成30年度、FSC森林認証のPRのため、認証材を使ったノベルティの作成・配布や産業祭でのパネル展示などを行いました。(384号 H31.3)

- ・浜松市では、FSC材の活用に向け、天竜区役所の腰壁や受水槽等で使用するとともに、平成23年度に市内のモデル小学校4校にFSC材の学童机・椅子を導入しました。また、民間の取組として、FSC材を100%使用したモデルハウスが平成24年4月に完成しました。(344号 H24.7)

- ・また、東京オリンピック・パラリンピックでの天竜材・FSC材の使用を目指して、市長によるトップセールスを行うとともに、平成26年11月に日本最大規模の住宅・建築関連専門展示会に出展しました。(359号 H27.1)

- ・さらに、平成27年9月、東京都内において「天竜材販路拡大ミーティング」を開催し、大手建設業者・設計業者、木材商社等に天竜材の特長を説明しました。(364号 H27.11など)

- ・2020東京オリンピック・パラリンピック関連施設の一つで、木造の仮設施設である選手村ビレッジプラザ整備では、静岡県、浜松市、静岡市、小山町が、令和元年に森林認証材を納材しました。大会後に解体される木材は、今後、それぞれの地域で大会のレガシーとして活用されます。(392号 R2.7など)

森の力再生事業

「森の力再生事業」による荒廃森林の整備は着実に進んでいます。

事業は、山村振興や林業振興などにも貢献しています。

- ・森林づくり県民税を財源に荒廃森林の整備を行う「森の力再生事業」は平成18年度に始まり、平成27年度までの第1期で12,374haを整備しました。平成28年度からの第2期では、11,200haを目標に着実に整備が進められています。この間、事業目的である荒廃森林の再生とともに、山村地域の雇用創出や林業事業体の経営基盤の強化、木材の活用など、山村振興や林業振興につながる波及効果ももたしています。(391号 R2.5など)

- ・令和3年度から、第2期の後期に入りましたが、県では、「森林環境譲与税」による市町の取組と役割分担しつつ、当事業を通じて荒廃森林の再生に取り組んでいくこととしています。(395号 R3.1)

低コスト造林

「伐って、使って、植える」といった森林資源の循環利用に向けて、新しい技術や作業方法による造林が進められています。

種苗については、従来の品種に比べ成長に優れるエリートツリーの生産が進んでいます。

- ・県では、造林コストを縮減するため、一貫作業による地拵えの省略・機械化、コンテナ苗による効率的な植栽、エリートツリー苗木による下刈りコストの縮減など、低コスト造林システムの定着に向けた取組を始めました。(369号 H28.9)
収益性の高い主伐と低コスト造林を実現するモデルを確立するため、現地で検証を行っています。(399号 R3.9など)
- ・エリートツリーについては、選抜後、基準を満たし国から指定を受けた品種について、接ぎ木や挿し木で増やし、ビニルハウスの採種園においてエリートツリー同士で交配を行い、種子を生産しています。(388号 R元.11など)

林業イノベーション

林業労働の軽減や安全性の向上、効率化や省力化を目指し、ドローンや新しい情報通信技術などの先端技術を活用した取組が進められています。

- ・県では、令和2年度から、レーザ計測やICT、ドローン等の先端技術を活用する「林業イノベーション」を推進し、木材生産の計画から施業の各段階において先端技術の導入による効率化・省力化等を図る取組を進めています。(396号 R3.3)
- ・造林分野では、ドローンや携帯電話圏外でも可能な通信を活用して、造林地の管理や造林検査を行う取組が進められています。(399号 R3.9)

森林景観整備

富士山周辺や伊豆地域では、富士山世界遺産登録や東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定を背景に、道路沿いの森林が整備されました。

- ・富士山が世界文化遺産に登録されたのを受けて、アクセス道路沿いの森林について、平成25年度から景観向上を図るための間伐や雑草木除去が行われました。整備を行った箇所は、景観が向上するとともに、見通しが良くなるなど安全性も向上しました。(368号 H28.7など)
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技の開催決定を受けて、伊豆や駿東地域のアクセス道路や競技コース沿線の森林整備も進められました。(382号 H30.11など)

山地強靱化の取組

平成22年に大きな山地災害を受けた小山町では、行政と住民が一体となって災害に強い強靱な森林づくりを進めています。

- ・平成22年9月、台風9号関連の記録的な豪雨により、小山町

では、多くの山崩れや土石流が発生し、甚大な被害をもたらしました。(337号 H23.5など)

- ・町では、森林に起因する災害の防止や被害軽減を図るため、平成25年度に森林所有者と行政関係者で構成する「小山町山地強靱化総合対策協議会」を設立し、治山事業の実施や地域住民との協働による森林の整備など、国、県、町、地域住民が一体となって災害に強い森林づくりに努めています。(377号 H30.1など)
- ・「スコリア」と呼ばれる特殊な土壌で広く覆われた北郷・須走地域は、平成22年の災害以降も被害が繰り返し発生し、短期集中的な対策を行う必要があることから、平成27年度から国による民有林直轄治山事業が実施されることとなりました。(362号 H27.7)

森林経営管理制度と森林環境譲与税

経営管理が行われていない森林について、市町村が仲介役となり森林所有者と担い手をつなぐ仕組みを構築する森林経営管理制度がスタートしました。

森林整備等の新たな財源として、森林環境譲与税の譲与も始まりました。

- ・森林の整備及びその促進に関する施策の財源に充てるため、2019年度から森林環境譲与税の譲与が始まりました。(385号 R元.5)
- ・浜松市では、これを活用し、森林経営管理制度に基づく取組や森林環境教育の推進、天竜材の利用拡大に向けた事業などを実施しています。(391号 R2.5)
- ・同じく2019年度からスタートした森林経営管理制度については、富士市が早くから取り組み、森林所有者への意向調査や説明会の開催を始めました。(390号 R2.3)

自伐型林業の展開

熱海市では、移住促進に向けた新たな雇用創出として、山林を保有しないで小規模な林業を行い一定の収入確保を目指す「自伐型林業」の支援を進めています。

「半林半X」といった新しい働き方も生まれています。

- ・平成28年度に熱海市は、新たな雇用創出と移住者増を目指し、低コストで始められる「自伐型林業」の就業支援を始めました。(368号 H28.7)
- ・平成28年度は自伐型林業を目指す研修生20名を募集し、市有林をフィールドに林業の基礎を学ぶ研修を行いました。(373号 H29.5)
- ・熱海市では、多種多様な本業の傍ら森林保全活動を行うNPOも誕生しています。

県民参加の森づくり

森づくり活動への県民の参加を促進するため、「森づく

り県民大作戦」などが行われています。

「しずおか未来の森サポーター」制度により、社会貢献として森づくり活動に取り組む企業も増えています。

- ・社会貢献活動の一環として企業参加の森づくりを進める「しずおか未来の森サポーター」制度が、平成18年度に始まり、平成19年3月に、第一号となる協定がヤマハ(株)、浜松市、静岡県の間で締結されました。(302号 H19.8)
- ・「しずおか未来の森サポーター」制度の新メニューとして、木材の搬出費を上乗せした紙を購入することで未利用木材の活用を促進する「ふじのくに森の町内会」が追加されました。(328号 H22.3など)
- ・平成12年度から実施してきた「森づくり県民大作戦」については、参加者の裾野を広げるため、平成27年度から通年開催に変更されました。また、森づくり団体等が行う活動に対し貢献証を交付する「しずおか森づくり貢献認定制度」を平成26年度に開始しました。(366号 H28.3など)
- ・森づくり活動が活発化するよう、森づくりに関する講演や事例紹介を行う森づくりミーティングを平成30年12月に初めて開催しました。(389号 R2.1)

シカ被害対策

シカによる食害が深刻な状況となっており、農林業被害のほか、生息密度の高い地域では下層植生の衰退などの森林被害が広がり、市街地等では交通事故も発生しています。

対策として、被害地では防護柵などによる防除に加え、加害個体の捕獲が行われているほか、全体の個体数を調整するための捕獲も行われています。

- ・伊豆地域におけるシカ被害は、農業被害にとどまらず、自生木の枯死やササの消失などにより森林の持つ公益的機能への影響も懸念されています。シイタケ原木林でも萌芽更新できない被害が拡大しています。(307号 H20.1)
- ・県では、特にシカ被害の大きい伊豆地域と富士地域で、県による管理捕獲を実施しています。管理捕獲では、銃による捕獲に加え、「囲いわな」や「くくりわな」を活用した効率的な捕獲にも取り組んでいます。(351号 H25.9)
- ・管理捕獲は、富士川以西地域においても、局所的にシカが高密度化している箇所が確認されたことから、当該地域についても本格的に進めていくこととしています。(374号 H29.7)
- ・県では、防護柵に設置への支援に加え、平成28年度から森林整備者自らが行う、囲いわな等の整備や被害森林におけるわなによる捕獲等に対して支援を行っています。また、ICTを活用した囲いわなによるモデル的な捕獲を富士地域で実施しました。(372号 H29.3)

南アルプスの高山植物保護

原生的な自然環境を有し、ユネスコエコパークにも登録されている南アルプスでは、シカの食害により高山植物群落が

衰退しており、ボランティア団体と県が協働で植生復元活動を行っています。

氷河期の生き残りである貴重な高山植物を未来につなぐため、種を増やす取組も始まりました。

- ・南アルプスでは、シカの食害により高山植物の減少や消失が見られ、聖平などのお花畑も衰退が進みました。このため、山岳団体等で構成されたボランティアネットワークと県が協働で防鹿柵を設置した結果、柵内では、かつてのお花畑が復活しつつあります。(388号 R元.11など)
- ・南アルプスを南限とする絶滅危惧種を救うため、県と高校が協働で種子の増殖に取り組んでいます。(398号 H3.7)

農林環境専門職大学の開学と農林大学校の閉校

農林業に関する教育機関として農林環境専門職大学が開学し、農林大学校が長い歴史を閉じました。

- ・令和2年4月、農林業のプロを育成する大学として、全国初の農林業分野の専門職大学である静岡県立農林環境専門職大学(愛称:アグリフォーレ)が開学しました。(396号 R3.3)
- ・一方、昭和45年の県立林業講習所時代から、実践的な教育により現場で活躍する林業者を多く輩出してきた静岡県立農林大学校林業学科は、令和3年3月に閉校となりました。(395号 R3.1)

そのほかの取組

(森林・林業再生プラン実践事業)

- ・平成22年2月、富士地域が、欧州型の林業システムを導入する実証実験を行う「森林・林業再生プラン実践事業」のモデル地域の一つに選定され、静岡県森林組合連合会が中心となって、長期的な森づくりのあり方の検討や、欧州型の先進機械を導入した効率的な生産システムによる実証実験に取り組みました。(333号 H22.11など)

(木の駅かわね)

- ・平成27年、川根本町で「木の駅かわね」がオープンしました。これは、山に切り捨てられていた間伐材などの木材を「木の駅」に集荷し、共同出荷することで得た収益を地域通貨と交換することで、森林・林業の再生と地域経済の活性化を図るものです。(369号 H28.9)

これ以外にも、フレッシュな情報や現場の声を数多くお寄せいただきました。ありがとうございました。

今後も、引き続き寄稿いただきますようお願いいたします。

(事務局)

◆県への要請活動について

山林協会では、静岡県森林組合連合会、静岡県木材協同組合連合会、静岡県山林種苗協同組合連合会、静岡県椎茸産業振興協議会、公益社団法人静岡県林業会議所と連携して、10月20日に、令和4年度森林・林業施策に係る要請を、川勝知事、難波副知事及び関係部長に対して行いました。



◆林業への就業支援について

当協会では、就業相談会や現場見学会、就業前研修など、林業への就業支援に関する事業を行っています。10月は、18日～29日に第1回林業支援研修を、森林・林業研究センター（浜松市浜北区）及びエコパ（袋井市）などで実施しました。（10日間）

林業にかかわるチェーンソーや刈払い機など基礎的な技術を熱心に受講され、12名の方が修了しました。

また、30日に、第2回しずおか森林の仕事見学会を、富士市及び富士宮市で実施し、当日は、幅広い年齢層の方々12名が参加されました。伐採現場から丸太市場、製材工場を見学し、林業の魅力の一端を感じていただきました。



11月以降は、右記のとおり予定しています。詳細は、山林協会ホームページでご確認ください。（新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止する場合があります。）

①第2回しずおか森林の仕事ガイダンス

内 容：新規就業者募集を行う林業経営体との相談会
日 時：令和3年11月27日（土）10時～15時30分
場 所：三島商工会議所（三島市）

②第3回しずおか森林の仕事見学会

内 容：伐採現場や丸太市場、製材工場の見学
日 時：令和3年12月18日（土）9時30分～15時30分
場 所：浜松市浜北区、天竜区
募集定員：15名程度

③第2回林業就業支援研修（予定）

内 容：チェーンソーの特別教育、刈払い機講習、小型建設機械の運転講習等
日 時：令和4年1月11日～21日（10日間）
場 所：エコパ（袋井市）ほか
募集定員：15名程度

令和3年度 治山・林道等コンクールの優秀工事 (15工事)

受賞の皆様

◎治山工事部門



土屋建設(株)
伊豆の国市浮橋



(株)室伏組
小山町小山



石川建設(株)
磐田市東平松



(株)西村組
浜松市北区引佐町田沢



(株)西村組
浜松市天竜区佐久間町相月



(株)グランドリサーチ
浜松市天竜区龍山町瀬尻



(株)西村組
浜松市天竜区龍山町瀬尻



エフ・正光建設(株)
浜松市天竜区水窪町地頭方

◎治山木材使用工事部門



(株)K A I T O
静岡市清水区穴原



◎林道工事部門



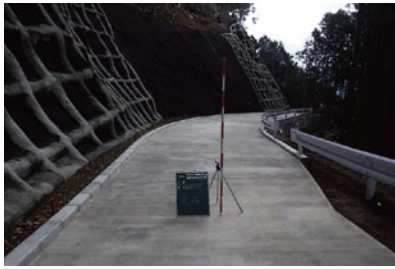
東静建設(株)
小山町竹之下



平和建設(株)
富士市中之郷



旭建工(有)
静岡市葵区大沢



丸大杉山建材(株)
静岡市葵区郷島



◎林道木材使用工事部門



(株)山田組
藤枝市西方

◎森林整備等工事部門



(有)天竜フォレスター
浜松市天竜区佐久間町浦川



※来年度もより多くの工事等が推薦されることを願っています。(事務局)

第38回

しずおか森林写真コンクール受賞作品



最優秀賞

千年の守り

伊賀 誠(島田市)
撮影地: 島田市千葉山智満寺内



審査講評

審査委員長
竹林 喜由

今年度の応募につきましては、昨年に続く新型コロナ禍という状況の中、応募点数358点、応募者数125名(前年度357点、114名)と前年とほぼ同程度となりました。

今回は、去る9月22日に8名の審査員により審査が行われました。

応募作品は概ねプリント6割、データ4割で内容的にはレベルの高い作品が多いと感じました。

ただ、写真的に良い作品でもコンクールの趣旨にそぐわないものも散見されましたので、

次回からは応募規定などをご理解の上ご応募くださるようお願いいたします。

最優秀賞(静岡県知事賞)は、伊賀 誠氏の「千年の守り」に決定しました。

島田市の千葉山智満寺の奥の院周辺にある、千年杉と呼ばれる大杉の一本(かみなり杉)を撮っています。

根元には雷神の石仏が奉っており、まさに神の宿る巨木でその迫力に圧倒されます。

作者は周りの煩雑な樹々などを入れずに、巨木と雷神に絞って作画しています。

薄暗い森の中で雷神に差し込む日差しが効果的で、作者の感動がストレートに感じられる作品になっています。

特選(静岡県山林協会長賞)は、上野祐司氏の「光射す時」、平井敏夫氏の「光の道 水的路 真夜中の砂防ダム」、同(静岡県グリーンバンク理事長賞)は、鷹野節二氏の「体験ツリークライミング」に決定しました。

「光射す時」

箱根スカイラインから見た、富士山と箱根外輪山の山腹に広がる森林を撮影したものです。富士山を控えめにして、森林を主体に作画しています。

針葉樹林の中の新緑の広葉樹に光が射している瞬間を捉えており画面に変化を与えています。

画面構成、カメラポジションなど完璧で作者の力量を感じます。

「光の道 水的路 真夜中の砂防ダム」

遠景に星空と富士山、中景にスギやヒノキの人工林、近景に建設中の砂防ダムで作画しています。長時間露出により星の軌跡と富士山の登山道の光を効果的に入れています。

中景の林と工事中の砂防ダムには照明を当てているようです。

難しい撮影技術を駆使した作品はとても魅力的で、特に林と砂防ダムの照明方法は聞いてみたいものです。

「体験ツリークライミング」

浜松市天竜区水辺の里において行われた体験ツリークライミングの作品です。

杉の大木にロープをかけて大勢の子供たちが木登り体験をしています。木や森や自然環境に触れ合うことにより、心も体も丈夫にする目的があるようです。

撮影のカメラポジション、人物の配置も良く、上手く作画されていますので状況が良く分か

ります。

準特選(静岡県山林協会長賞)は、黒田敏夫氏の「森の恵みと共に」、中沢力男氏の「水車小屋と満月」、後藤正徳氏の「森の華」、同(静岡県グリーンバンク理事長賞)は、杉本昌弘氏の「ケーブルクレーンのある工事現場」に決定しました。

「森の恵みと共に」

これは燃料用の薪のようです。大量に作られて乾燥のために積み上げているのでしょうか、小槌で叩いて木口を揃えています。

人物の配置も良く、ゆったりとした時間が表現された好感の持てる作品だと思います。

「水車小屋と満月」

浜松市西区伊左地町の「森の水車公園」での作品です。

公園は歌唱「森の水車」の発祥の地を記念して復元されたとのことです。

満月の夜、月と水車小屋をメインに撮影しています。

静かな夜に水車の回る音が聞こえてきそうな雰囲気のある作品です。

シャッタースピードが遅い為、水車が高速回転しているように見えます、何段階かスピードを変えて撮られたら良かったと思います。

「森の華」

霧に包まれた林とその中に咲くコアジサイで作画しています。

静かな林の湿った空気感と静寂感が見事に表現されています。

撮影技術の確かさが感じられる素晴らしい作品だと思いますが、画面右下の赤いものの処理ができていれば完璧となったでしょう。

「ケーブルクレーンのある工事現場」

この写真は急斜面の荒廃山地での治山工事の様子を撮ったものです。

既設の治山施設の上部に別の施設を造るもので、中腹に重機が見えます。

又、手前に見えるのは、道のない現場に建設資材などを架線て運ぶケーブルクレーンの柱です。

この困難な工事は森林の維持造成を通じて人々を土砂崩れなどの山地災害から守るためのものです。

一般人には見る機会の少ない貴重な写真だと思います。

このほかに入選20点が選ばれましたが、いずれも力作でどれが入賞してもおかしくない作品ばかりでした。

なお、受賞者の皆様よりオリジナル画像データをお送りいただきましたところ、撮影日が規定外である作品が1点ありましたため、残念ながら失格とし、入賞作は全部で28点となりました。

次回も多数の力作の応募があることを期待致します。



特選

光射す時

上野 祐司(箱根町)
撮影地: 箱根スカイライン



特選

光の道 水の路 真夜中の砂防ダム

平井 敏夫(富士市)
撮影地: 富士宮市山宮



特選

静岡県
グリーンバンク

体験ツリークライミング

鷹野 節二(磐田市)
撮影地: 浜松市天竜区熊平 水辺の里

準特選

森の恵みと共に

黒田 敏夫(静岡市)
撮影地: 静岡市清水区布沢



準特選

水車小屋と満月

中沢 力男(浜松市)
撮影地: 浜松市伊左地町



準特選

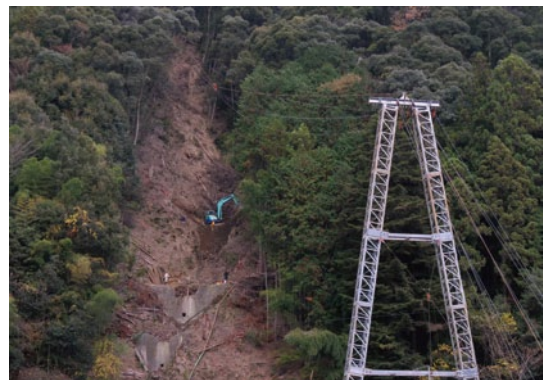
森の華

後藤 正徳(掛川市)
撮影地: 掛川市原泉

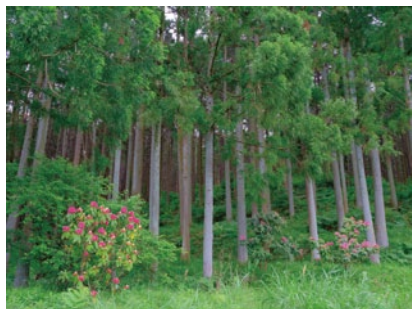
準特選 静岡県
グリーンバンク

ケーブルクレーンのある 工事現場

杉本 昌弘(藤枝市)
撮影地: 静岡市葵区黒保



入 選



森に咲く

森澤 宗彦(島田市)
撮影地: 島田市吹木



収穫日和

佐藤 美栄子(茅ヶ崎市)
撮影地: 伊豆市湯ヶ島



シャクナゲ絨毯

土手 光貴(横浜市)
撮影地: 天城山



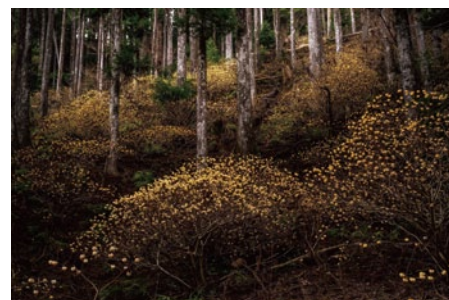
僕より大きく育ってね

大瀧 彩央里(浜松市)
撮影地: 浜松市天竜区



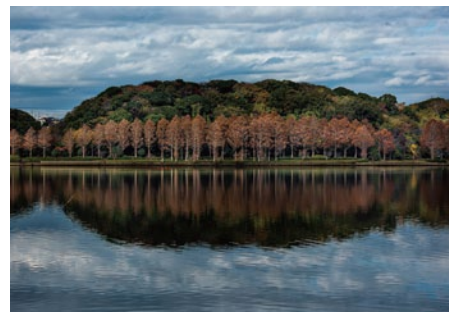
朝霧の中

加藤 康弘(浜松市)
撮影地: 浜松市天竜区春野町



ミツマタの林

大石 良則(三島市)
撮影地: 賀茂郡河津町



晩秋

加藤 義昭(浜松市)
撮影地: 浜松市西区 佐鳴湖



風に乗る

矢野 彩子(島田市)
撮影地: 島田市川根町
七曲スカイパーク



人工林もいいね!

野村 進(富士宮市)
撮影地: 富士宮市佐折
東海自然歩道富士展望コース



積み込み作業

牧野 光伸(浜松市)
撮影地: 磐田市神増

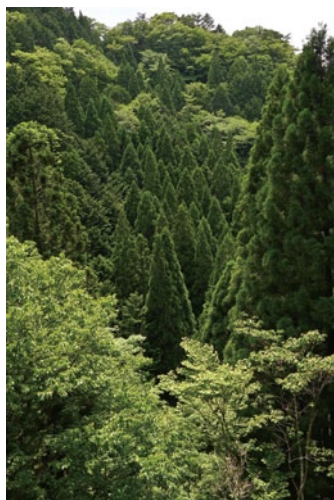
入 選



森に生命のさえずり

門脇 秀一(富士宮市)

撮影地: 富士宮市栗倉



森林美林に囲まれて

佐藤 守(浜松市)

撮影地: 浜松市天竜区春野町 秋葉神社



落ち葉に包まれて

山崎 俊泰(掛川市)

撮影地: 掛川市居尻



涼を求めて

小松原 清(浜松市)

撮影地: 浜松市北区 滝沢キャンプ場



森林と紅葉の架け橋

宮崎 泰一(富士市)

撮影地: 富士市 須津川溪谷



確認をお願いします

市川 祐介(伊豆の国市)

撮影地: 伊豆の国市田原野



「薪の炎蒸留」に貢献

綾木 恵子(静岡市)

撮影地: 静岡市葵区落合 ガイアフロー静岡ウイスキー



よみがえる森林

村山 忠彦(沼津市)

撮影地: 沼津市 足高地先



幼木よ育て

山田 せい子(島田市)

撮影地: 掛川市



伐採作業は進む

飯田 政巳(磐田市)

撮影地: 浜松市天竜区